Dec. 1935.

2) 葉は卵形乃至狭卵形。裏面は短毛あり（台湾）。タイワンナギナタカウジュ
E. Oldhami Hemsl.

2) 葉は卵形乃至卵形。裏面は殆んど平滑（木州、九州）フタボナギナタカウジュ
E. Oldhami var. nipponica Ohwi.

1) 花は心臓状卵形乃至卵形。中央部又はそれ以下にて巾最も狭し。基部円形。先
端の芒は1-2 mm。

2) 花序は密。花軸は前面前よりは見えず。萎芽は短芒に終わる。

3) 花は心臓状円形。先端は稍淡灰芒に細まる。中央より下部巾最も狭し。花
は大。紫色長さ6-8 mm。（朝鮮）＝シキカウジュ——E. splendens Nakal.

3) 花は卵形。中央部巾最も狭し。先端は急に芒と成る。花は小。長さ4 mm。
前後。淡紅紫色。（南千島、北海道、木州、九州、四國、朝鮮）。ナギナタカ
ウジュ——E. Patrini Garcke.

2) 花序は花後著しく狭く、花軸は花序の正面より見える事を得。萎芽は覗けず芒
と成らぬ。

(木州) ナギナタカウジュ——E. interrupta Ohwi.

傍 Handel-Mazzetti に依ると E. Patrini Garcke の花の大きなものは E. Feddei
Lév. と云ふものらしいとの事である。

14) カウバウモドキ――Festuca sibirica Hack. 前の Leucopoa albida V. Kreuz.
et Borr. が満洲の満州里に産する。佐藤潤平氏の採集である。此植物の外観はすこぶる
寄栄のもので、相当大きな株に成るらしい。短枝等は見られない茎の下部には、枯れた葉
鞘が澤山ついて居る。種はカウバウそっくりで花の色も光澤もよく似て居るが花序
は一層密で殆ど細状をなして居る。Piper は Leucopoa と云ふ属は若しそれ以前の属
に含ませるのならば Poa にであって Festuca にではないと考へて居るが葉鞘の状
態、葉舌に毛がある點、花に長短毛のない點、卵形の茎骨が不完全な點等別属として取
扱はならないなら、むしろ Festuca とした方が適當と思われる。

タネガシマムエフラン九州高隈に産す

田 代 善 太 郎

タネガシマムエフラン（Aphyllorchis tanegasimensis Hayata.）は早くも1891年
に種子島に発見され、早田氏に依って研究された植物なるが、正宗厳敬氏はこれを
抄 録


著者は塩原木葉石層なる塩原層のフロラを研究し、本フロラは更新世のものであつて、常時海面5,600 m. の處にありし淡水湖の沈積物に埋蔵されたものであり、フロラの性質は現今本州中部1500 m. 或は蝦夷島の中南部にあるものに彷徨するものであると云し、常時塩原海面5,600 m. にありしフロラは今日同處海面1500 m. のフロラに相當するものであるから、更新世の常時は其地方気温は今より揚氏5度乃至5.6度低かはものであると結論せり。

塩原地層は第三新紀の鮮新世に於て塩原第三紀層なるものを、若き古生代地塊の上に沈積しつつありが、其終りには著しく塩海と変じ、最後に此沈積層を變動せしめ凹凸の地形を成し、此地形が殆ど平坦面化せし頃は第三紀の終りであ